

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トリニティ豊中本町新築工事	階数	地上5F
建設地	大阪府豊中市本町	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、第1種	平均居住人員	78人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所,物販店,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年2月3日
敷地面積	1,455㎡	作成者	高松建設一級建築士事務所 藤枝 誠
建築面積	627㎡	確認日	2023年2月3日
延床面積	2,283㎡	確認者	高松建設一級建築士事務所 太田栄治



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.6

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
良好な都市環境を形成し、賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
カーテン、庇の2種類を組み合わせて glare を制御するよう努めた	耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長くするように努めた。	地域の生態系に悪影響を及ぼす外来種に関し、適切な対応を行っている
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱材を施し、一次消費エネルギー量の軽減に努めた。	ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用し、フロン・ハロンを回避している	適切な量の駐車場・駐輪場を設置して交通負荷抑制に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R5-変-0010

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	トリニティ豊中本町新築工事						
	建設地	大阪府豊中市本町						
	用途/区分	集合住宅 物販店 事務所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B-	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	建物の断熱性						3	
④	エネルギー削減						4	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】								
	項目	評価内容					スコア	評価
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価					3.5	4
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価					2.0	3
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価					3.0	
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価					3.0	
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価					3.4	3
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価					3.8	4
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価					2.2	—
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-
【その他】								
		技術の名称				考慮事項		
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							